みやこりんせんめいしょうずえ

#6 都林泉名勝圖會

作者：秋里籬島（あきさと・りとう　生没年不詳）
刊行：寛政 11 年（1799）

◇◇◇

図会』が大流行し、それ以降、画工と共に諸国を踏査して『大和名所図会』『東海道名所図会』などを出版した。また、軍記物を平易な文章にし、名所図会に倣って大本で挿絵を多く入れた『源平盛衰記図会』を寛政 12 年(1800)に刊行し、読本における「図会物」というジャンルの嚆矢となった。

主に名所図会作者として知られるが、貞門系の京都俳人、而咲堂練石に入門した俳諧師としても俳諧、狂歌等を多く残している。この他『京之水』『俳諧早作伝』『秘傳千羽鶴折形』など多数の著作がある。『風景の構図』(千田稔)によれば、作庭にも興味があった籬島は晩年「籬島軒秋里」と名を改め、庭造家としても活躍し『築山庭造伝』などの作庭書も著したようである。

木版画の画工としては佐久間草偃(そうえん)、西村梅渓、奥文鳴の３名があがっている。佐久間草偃(？-1814)は京都の人で松村月渓の門人。西村梅渓(1758-1835)は京都に住み名所図会や絵本を描いた。西村中和の名でも知られる。奥文鳴(？-1813)は京都生まれ。円山応挙の門に学び、応門十哲の一人といわれる。

📖 本文を読む

＜翻刻＞

『日本図会全集 9　都林泉名勝図会』日本隨筆大成刊行會 1928 [291.03/56/9]

『都林泉名勝図会　京都の名所名園案内』上下 白幡洋三郎監修 講談社 1999 [629.21/11/1] [629.21/11/2]

📖 参考文献

飛田範夫「４.『都林泉名勝図会(巻１)』の庭園」(『造園雑誌』46(5) 1983)

※当館未所蔵　CiNii ｵｰﾌﾟﾝｱｸｾｽで閲覧可能

『風景の構図　地理的素描』千田稔著 地人書房 1992 [290.13/8]

『秋里籬島と近世中後期の上方出版界』藤川玲満著 勉誠出版 2014 [289.1/6000]